福井空港 新空港ビル 基本設計について

新空港ビルの概要

供用開始：令和１１年度（予定）
延べ面積：約１，９００㎡
構造等　：鉄骨造、地上３階建て
主な用途：（１階）ロビー、空港管理事務室、防災航空隊事務室、休憩・待合室
（２階）屋内交流スペース、大・小会議室、事業者事務室
（３階）空港管理事務室、屋上展望デッキ



現空港ビル



福井の未来を編む空港
～地域を結び地域を守る空の拠点～

福井空港は県民の安全・安心を守る防災の拠点空港として地域を支え、観光・ビジネス利用を促進する拠点として各地域とつながり、日常的には地域住民に親しまれる交流空間として機能します。

多様な人・文化・産業・くらしを編み込みながら、福井の未来を創造する空港を目指します。

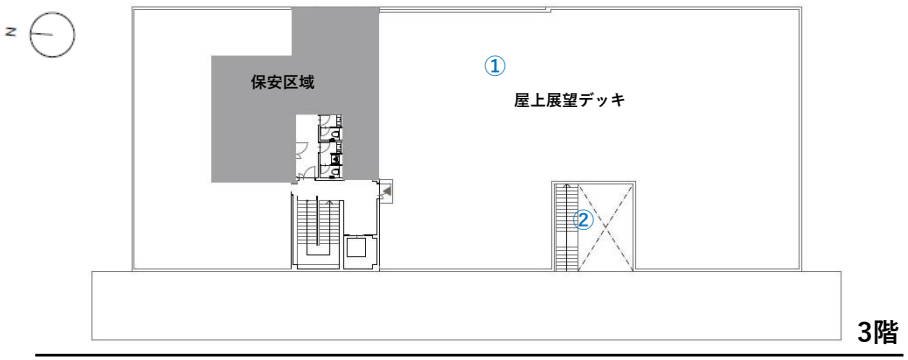
・航空インフラと日常風景を緩やかにつなぐ屋根付きの屋外交流スペース
・点と点をつなぐ航空ネットワークを格子により表現

外観イメージ



福井空港 新空港ビル 基本設計について

平面プラン



3階

①飛行機を見て楽しむことのできる屋上展望デッキ
②駐車場から気軽に屋上や２階へアクセスができる屋外階段

2階

③災害時は指揮調整所になり、平常時は講義室、地域活動等に活用できる大会議室
④災害時に個別指揮所となる小会議室
⑤雨天時でも屋内からエプロンを眺められる屋内交流スペース

1階

⑥DMAT医療に必要な面積を確保し、多様な展示やイベント等にも対応するロビー
⑦エプロンから駐車場までのスムーズな動線
⑧積雪・雨天時に配慮した屋外交流スペース
⑨プライバシーを確保した待合室、事務室、DMAT倉庫を保安区域に配置

内観イメージ



整備スケジュール(案)

基本・実施設計	～ 令和9年3月
新空港ビル建設工事	令和9年度　～ 令和10年度
供用開始	令和11年度

※供用開始後に現空港ビル解体

・屋外交流スペースからエプロンに向かう連続的で開放感のあるロビー
・県産材等を活用した、温かく落ち着きのある空間